

## 黒崎播磨株式会社 2018年3月期決算説明会 質疑応答集

この質疑応答集は、5月29日（火）に開催したアナリスト・機関投資家向け決算説明会にて、ご出席の皆様からいただいた主なご質問をまとめたものです。理解促進のために一部内容の加筆修正を行っております。

Q1. 耐火物原料価格の高騰に伴い耐火物の販売価格を改定しているとのことだが、昨年から今年にかけての値上げ幅はどの程度か。

A1. 全体をみれば平均して10～30%程度の値上げですが、耐火物の品種によって差があるので一概には言えません。例えば転炉用耐火物の主原料はマグネシアとカーボンですが、マグネシアの価格高騰は原料の中でも特に大きく、価格は昨年2～2.5倍程度になりました。結果、販売価格でも5割近い値上げをお客様にお願いした製品もあります。逆に原価に占める原料比率が低い機能性耐火物等では低めの値上げ幅となっています。

Q2. 耐火物原料の今後の価格動向はどう見ているか。

A2. マグネシアについては昨年のような急激な上昇は無いと考えています。しかし主な原産地である中国が供給を抑制している状況に変化はないため、大きく値下がりすることも考え辛く、10～20%程度の緩やかな上昇、あるいは高止まりになると想定しています。また黒鉛は足元で価格が上昇しており動向を注視しているところです。

Q3. カーボン原料については使用しているのはニードルコークス(人工原料)か天然黒鉛か。

A3. 天然黒鉛です。ニードルコークスは石炭から製造される人工原料で黒鉛電極等に使用されますが、当社が使用しているのは天然黒鉛となります。

Q4. 今季想定しているコストアップはどのようなものがあり、価格改定にはどの程度を見込んでいるか。

A4. 期中のコストアップ要因として原料では黒鉛やアルミナ、その他では原油・LNG等のエネルギーコスト上昇を懸念しています。現状の業績見通しには、これらの期中上昇分を販売価格への転嫁することは織り込んでいません。

Q5. 中期経営計画の設備投資計画について、投資額が大きく償却費増等のコストアップがある中で 2020 年の経常利益目標は 120 億円と大幅増益になっているが、その背景は。

A5. 国内の設備投資については生産性向上投資もあるものの、建屋新設や老朽更新等を含むことなどから短期的に利益に直結するとは見込んでいませんが、製品の健全な再生産により供給責任を果たすためにも必要不可欠な投資であり、一部供給継続が必要な品種についてはお客様にも価格面での負担等について理解をお願いしたいと考えています。また海外では積極的な投資による能力増強・生産性向上を見込んでおり、早期に売上高・利益向上へ寄与すると考えています。

Q6. 中期経営計画の業績目標について、売上高・利益の海外比率がどの程度になるか。

A6. 海外での売上高は現状から更に高めていく計画ですが、2020 年の海外売上高比率は 36%程度と 2017 年度の 35%から微増となる見込みです。これは中期計画の為替レート前提が 100 円/ドルと現在より円高を想定しているため、円換算後の海外売上高が目減りするためであり、実質的には比率の上昇以上の海外展開を見込んでいます。売上高・利益共に拡大のメインターゲットは海外であり、従来通り積極的に海外事業を推進していく方針です。

以 上